

昭和十八年度版

財團  
法人  
人口問題研究會要覽

昭和十八年度版

財團  
法人

人口問題研究會要覽

目次

一	沿革	一
二	財團法人口問題研究會寄附行爲	一
三	財團法人口問題研究會處務規程	三
四	財團法人口問題研究會會計規則	三五
五	財團法人口問題研究會會員規則	二〇
六	顧問及役職員	二三
七	昭和拾八年度事業計畫	二九
八	主要事業日誌	三五
九	既刊圖書總覽	四四

## 一 沿 革

大正の末期過去十數年に於ける我國の人口は食糧との均衡を破つて急増する傾向を有するに至りたる爲昭和二年政府は内閣に人口食糧問題調査會を設置し人口と食糧との關係を調査審議せしめられた。その後四圍の情勢はこれが對策に曙光を見るに至つたので、昭和五年三月この官制は廢止せられたのであるが、思ふに人口問題は國民生活の根本に關する事項なるを以て短期又は彌縫的對策を以てしては其の核心に觸れ、根本的方策を見出すことの至難にして、之が解決の萬全を期するためには、人口問題の恒久的調査研究機關の必要が痛感され人口食糧問題調査會第十二回特別委員會に於て新渡戸稻造委員は人口問題の永續性を指摘し其の恒久的調査機關設置の必要を強調し「人口に關する諸問題の研究を目的とする學術的機關の設置を謀り其の充實を助成すること」を提案した。爾來、社會局側幹事、永井亨委員より數度に亘つてかゝる恒久的機關設置に關する提案が行はれ、又昭和四年には國際聯盟協會を代表して故子爵澁澤榮一氏並に井上雅二氏より政府に對し同様の建議書が提出せられた。昭和五年一月二十三日に至り、人口食糧問題調査會特別委員會は「人口

問題に關する常設調査機關設置に關する建議案」を可決し、同年三月二十七日、第五回總會に之を附議し本案を可決して直ちに政府に答申した。即ち「我國の人口問題は常時調査研究を行ひ其の真相を明にし、之に基き隨時其の對策を講ずるにあらざれば問題解決の針路を失ひ、對策施設の基準を誤り、洵に憂ふべき事態に陥ることなしとせず。然るに現在の人口食糧問題調査會は政府の諮問に應じ政府に建議する外、常時に於て調査研究を行ふに適せざる憾みあり。加ふるに人口問題は其の性質上國際的見地より之を講究し國際機關との聯絡を圖ること亦必要なり。仍て政府は此際速に人口問題に關する常設調査機關として研究所を設置し並に諮問機關として委員會を附設せられんことを要望した。政府は之等決議を尊重し其の要望に基き、内務省社會局に於て立案せる人口問題研究機關の設置に要する豫算案を帝國議會に提出して昭和六年度豫算に就き其の協賛を経たが内閣更迭等の事情によりこの豫算を實行する運びに至らなかつた。

然るに此の頃に至り世界經濟恐慌の波及に依り、不況は連年深刻の度を加へ失業量實に二百萬と推定され、茲に人口問題は、如何なる職業に依つて之等の人口を養ふべきかといふ所謂失業問題としても之が重要性を強調されるに至つた。更に一方國際情勢の動向に鑑み我國海外人口發展の地歩

供  
御  
高  
覽

國  
人

人  
口  
問  
題  
研  
究  
會

を廣むる事が當面の要務とせられ人口問題の重大性は益々高調され、昭和七年十一月二十一日内務省發起の下に曩に人口食糧問題調査會當時委員であつた官民の有志會合し、人口問題研究會の創立を決議して其の實現に努めた結果民間有力財團よりの出損もあり、昭和八年十月二十七日茲に財團法人人口問題研究會の設立を見るに至つたのである。

然るに時世の變轉は國を擧げて滿洲事變、支那事變次いで大東亞戰爭に逢着し大東亞共榮圈建設の重大なる時局に直面するや、人口問題は今亦面目を一新して人的資源保持涵養の新課題を以て登場するに至つた。即ち戰時體制の運営は内に生産擴充と外に軍催擴張の兩陣容を整へ人的資源の適正即妙なる配備を必要とし、更に民族の向上發展を計るべく、より良き質の人口とより多き量の人口の立脚點より不動の國策を樹立することこそ非常時國策の根蒂に培ふ所以であつて、今や人口問題は民族問題乃至海外資源の領野にまで論及せらるゝに至つた。

本會は右に述べたる如き過程を通し聲を大にしてかゝる諸問題解決の凡ゆる分野から、調査研究に一般の啓蒙に微力を傾倒し、その解決に資すべく健闘して來たのであるが、其の事業の一なる人口問題全國協議會に於て一般の輿望に依つて再度に亘り「人口問題に關する國立常設調査機關設置

の件」を政府に建議し又之が施設の實現に努力せる結果として、昭和十四年八月國立の人口問題研究所が開所されるに至つた。而して本會はこの研究所と表裏一體を爲し、其の調査研究を補ふと共に本會も亦調査機能の發揮に努め、國外に對しては外地機關を動員して大陸調査に進出し、國內に對しては特に人口問題に關する啓蒙宣傳機關として益々重要な役割を演ずるに至つた。

昭和十六年一月二十二日政府は閣議に於て「人口政策確立要綱」を決定し、我國人口國策に關し劃期的な指標を與へたが、本要綱に基き同年八月一日厚生省官制改正に依り人口局が新設され、茲に各般に分掌されてゐた人口行政が統一的に取扱はれることになつたが、同時に本會の所管も従來の社會局より人口局に移り、益々その機能發揮に努めることになつたのである。



## 二 財團法人 人口問題研究會寄附行爲

(昭和十五年四月一日第四章改正  
昭和十六年八月一日第三章第五章改正)

### 第一章 名 稱

第一條 本會ハ財團法人人口問題研究會ト稱ス

### 第二章 目的及事業

第二條 本會ハ我國人口問題ノ解決ニ資スル爲諸般ノ調査及研究ヲ遂ケ且ツ人口問題研究諸團體ノ聯絡ヲ圖リ併セテ人口政策施設ノ促進ヲ期スルヲ以テ目的トス

第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

一、人口問題ニ關スル調査及研究

二、人口問題ニ關スル資料ノ蒐集及整備

三、國內人口問題研究諸機關及研究者トノ聯絡提携

四、國外人口問題研究諸團體トノ聯絡及資料ノ交換

五、調査、研究ノ結果ノ發表

六、政府ノ諮問ニ對スル答申又ハ建議

七、其ノ他前條ノ目的ヲ達スル爲必要ナル事業

### 第三章 事務所

第四條 本會ハ事務所ヲ東京市厚生省人口局内ニ置ク

### 第四章 會員

第五條 會員ヲ分チテ特別會員、維持會員、終身會員及通常會員ノ四種トス

特別會員ハ本會ニ功勞アル者又ハ學識名望アル者ニ就キ理事會ニ於テ之ヲ推薦ス

維持會員、終身會員及通常會員ハ本會ノ趣旨ニ賛同シ所定ノ會費ヲ納入スルモノトス

其ノ入會、退會並ニ會費ノ納入ニ關スル規則ハ理事會ノ議決ヲ經テ別ニ之ヲ定ム

### 第五章 役員職員及顧問

第六條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一、會長

一、名

一、理事 若干名

一、監事 二名

一、評議員 若干名

第七條 會長ハ理事會ニ於テ理事中ヨリ之ヲ互選ス

會長ハ本會ヲ代表シ會務ヲ統轄ス

會長故障アルトキハ會長ノ指名シタル常務理事其ノ職務ヲ代理ス

第八條 理事ハ評議員會ニ於テ評議員中ヨリ之ヲ互選ス但シ理事ノ中一名ヲ厚生省人口局長ノ職ニ在ル者ニ會長之ヲ委囑ス

第九條 理事中ニ常務理事若干名ヲ置キ會長ノ指名ヲ以テ之ヲ定ム

常務理事ハ會長ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌理ス

第十條 監事ハ業務執行及資産狀況ヲ監査ス

第十一條 監事及評議員ハ會長之ヲ委囑ス

第十二條 役員ノ任期ハ三年トス但シ再任ヲ妨ケス

補闕ニ依リ就任シタル役員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第十三條 役員任期滿了ノ場合ハ後任者ノ就職スル迄仍チ前任者ニ於テ其ノ職務ヲ行フ

第十四條 本會ニ左ノ職員ヲ置キ會長之ヲ任命又ハ委囑ス

一、研究員 若干名

一、助手 若干名

一、幹事 若干名

一、書記 若干名

第十五條 研究員ハ調査研究ニ從事ス

助手ハ研究員ノ調査研究ヲ補佐ス

第十六條 幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務及會計ヲ處理ス

書記ハ上司ノ指揮ヲ受ケ庶務及會計ニ從事ス

第十七條 人口問題ノ調査研究竝ニ研究員ノ指導ノ爲主査一名及副主査若干名ヲ置ク

主査及副主査ハ理事及評議員中ヨリ會長之ヲ委囑ス

第十八條 本會ニ顧問若干名ヲ置クコトヲ得

顧問ハ理事會ノ議決ヲ經テ會長之ヲ委囑ス

## 第六章 理事會

第十九條 理事會ノ議決スヘキ事項左ノ如シ

一、評議員會ニ附議スヘキ事項ニ關スルコト

二、人口問題ニ關スル調査研究事項ニ關スルコト

三、財産ノ管理及處分ニ關スルコト

四、寄附ノ受諾ニ關スルコト

五、寄附行爲ノ變更及規則ノ制定變更ニ關スルコト

六、其ノ他會長ニ於テ必要ト認メタル事項ニ關スルコト

第二十條 理事會ハ必要ニ應シ會長之ヲ招集ス

理事三分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求ヲ爲シタルトキハ理事會ヲ招集スルコトヲ要ス

會長必要ト認ムルトキハ書面ニ依ル表決ヲ求メ招集ニ代フルコトヲ得

第二十一條 理事會ノ議長ハ會長之ニ當ル

會長故障アルトキハ會長代理者之ニ當ル

第二十二條 理事會ノ議事ハ出席理事ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

## 第七章 評議員會

第二十三條 評議員會ノ議決スヘキ事項左ノ如シ

一、歳入歳出豫算ニ關スルコト

二、決算及事業執行狀況ノ報告ニ關スルコト

三、其ノ他會長ニ於テ必要ト認メタル事項ニ關スルコト

第二十四條 評議員會ハ毎年一回之ヲ招集ス但シ會長ニ於テ必要ト認メタルトキハ隨時之ヲ招集スルコトヲ得

評議員三分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求ヲ爲シタルトキハ評議員會ヲ招集スル

コトル要ス

第二十五條 第二十一條及第二十二條ノ規定ハ評議員會ニ之ヲ準用ス

### 第八章 資産及會計

第二十六條 本會設立當時ノ資産ハ別紙目錄ノ通トス

第二十七條 本會ニ基本財産ヲ置ク

基本財産ノ積立、管理及處分方法ハ理事會ノ議決ヲ經テ別ニ之ヲ定ム

第二十八條 本會ノ會計年度ハ四月一日ヨリ翌三月三十一日迄トス

第二十九條 本會ノ經費ハ左ニ掲クルモノヲ以テ支辨ス

一、基本財産以外ノ資産

二、補助金

三、寄附金

四、會費

五、其ノ他ノ收入

第九章 附 則

第三十條 本會ノ事務執行ニ關シ必要ナル規則ハ理事會ノ議決ヲ經テ別ニ之ヲ定ム

第三十一條 本寄附行爲ヲ變更セントスルトキハ理事三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第三十二條 本法人設立當時ノ理事左ノ如シ

伯爵 柳 澤 保 惠

男爵 藤 村 毅 朗

永 井 亨

那 須 皓

山 川 端 夫

下 村 宏

堀 切 善 次 郎

河 田 烈

長 谷 川 尠 夫

吉 田 茂

富 田 愛 次 郎

丹 羽 七 郎

井 上 雅 二



### 三 財團 法人 人口問題研究會處務規程

第一條 本會ノ事務ハ別ニ規定アルモノノ外本規程ニ依リ處理スベシ

第二條 本會ノ常務ハ常務理事ノ決裁ニ依リ之ヲ處理ス但シ重要ナル事項ハ會長ノ決裁ヲ經ルコトヲ要ス

第三條 本會ニ到達スル文書ハ書記之ヲ接受シ親展書ヲ除クノ外開封ノ上件名番號等ヲ簿冊ニ登錄

シ各主管係員ニ配布スベシ

親展書ハ封緘ノ儘記名者ニ配布シ領收印ヲ受クベシ

第四條 主管係員文書ヲ接受シタルトキハ幹事ノ指揮ヲ受ケ速ニ處理案ヲ具シ決裁ヲ受クベシ

第五條 現金其ノ他有價證券ヲ接受シタルトキハ金額、種類等ヲ明記シ別ニ定ムル會計規則ニ依リ

收納スベシ

第六條 常務理事不在ノトキハ常務理事ノ委任シタル理事其ノ職務ヲ代行ス

第七條 本會ヨリ發送スル文書ハ書記ニ於テ其ノ件名、番號ヲ簿冊ニ登錄スベシ

第八條 完結文書ハ書記ニ於テ整理保存スベシ

第九條 本會ヨリ發送スル文書其ノ他ニ使用スル印章ハ書記之ヲ押捺スベシ

附 則

本則ハ昭和十年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

#### 四 財團 法人 人口問題研究會會計規則

##### 第一章 總 則

第一條 補助金、寄附金、會費、其ノ他ノ一切ノ收入ヲ以テ歲入トシ一切ノ經費ヲ歲出トス

第二條 一會計年度ノ出納ハ翌年度五月三十一日ヲ以テ閉鎖ス

出納閉鎖後ノ收入又ハ支出ハ之ヲ現年度ノ歲入又ハ歲出トナスモノトス

第三條 各年度ニ於テ歲計ニ剩餘アルトキハ翌年度ノ歲入ニ編入スベシ

第四條 本會ノ收入ハ確實ナル銀行又ハ信託會社若ハ郵便官署ニ預入シ支出ハ現金拂又ハ小切手、

振替貯金若ハ振替拂ヲ以テ之ヲ爲ス

##### 第二章 豫 算

第五條 歲入歲出ノ豫算ハ前年度二月末日迄ニ調製シ三月末日迄ニ評議員會ノ議決ヲ受クベシ

第六條 歲入歲出豫算ハ一般會計及特別會計毎ニ調整シ之ヲ款、項、目ニ區分スルモノトス

第七條 避クベカラザル豫算ノ不足ヲ補フ爲又ハ豫算外ニ生ジタル必要ノ費途ニ充ツル爲豫催費ヲ

設クルコトヲ得

### 第三章 收入及支出

第八條 收入及支出ハ常務理事ノ決判ヲ以テ之ヲ執行スルモノトス但シ本會事務所所在地外ニ於テ開催スル講演會、其ノ他ノ會合ニ必要ナル經費、鐵道貨物運賃其ノ他現場支拂ニ要スル經費並委託購買ヲ爲スニ要スル經費ニ就テハ本會職員ヲシテ現金支拂ヲ爲サシムル爲現金前渡ヲナスコトヲ得

前項ノ現金前渡ヲ受ケタル職員ハ支拂完了ノモノニ對シ事務所所在地歸着後一週間以内ニ支拂證憑書類ヲ添ヘ精算書ヲ提出スベシ

第九條 經費ハ豫算ニ定メタル目的以外ニ使用シ又ハ各款ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ズ

各項ノ金額ヲ流用セムトスルトキハ會長、各目ノ金額ヲ流用セムトスルトキハ常務理事ノ決判ヲ受クベシ

第十條 豫算内ノ支出ノ爲經理上必要アルトキハ一時借入ヲ爲スコトヲ得

前項ノ借入金ハ其ノ會計年度ノ收入ヲ以テ償還スルモノトス

## 第四章 決算

第十一條 決算ハ翌年度七月三十一日迄ニ豫算ノ様式ニ遵ヒ決算報告書ヲ調製ノ上監事ノ意見ヲ附シ翌年度内ニ評議員會ニ提出スルモノトス

## 第五章 契約

第十二條 物品ノ購入、印刷其ノ他ノ契約ヲ爲サムトスルトキハ二人以上ノ見積書ヲ徴シ其ノ最低價格ノ者ト契約ヲ締結スルモノトス但シ左ニ掲グル場合ニハ一人ノ見積書ヲ以テ締結スルコトヲ得

一、契約ノ性質又ハ目的ガ競争ヲ許サザルトキ

二、急速ヲ要シ競争ニ附スルノ暇ナキトキ

三、勞力ノ供給又ハ運送ヲ請負ハシムルトキ

四、契約代金貳拾圓ヲ超エザルトキ

第十三條 前條ノ契約ハ常務理事ノ名ヲ以テ之ヲ締結スルモノトス

第十四條 契約代金壹千圓ヲ超ユルトキハ契約ノ目的、履行ノ期限、契約違反ノ場合ニ於ケル保證

金ノ處分、危險ノ負擔其ノ他必要ナル事項ヲ詳細ニ記載シタル契約書ヲ作製スルコトヲ要ス

## 第六章 物品出納

第十五條 物品ハ左ノ區分ニ依リ取扱フベシ

一、備品（器具、機械、圖書、雜品）

二、消耗品（用紙類、雜用品）

三、印紙切手類（郵便切手、郵便葉書、收入印紙、電車、乗合自動車乗車券）

第十六條 不用品ハ賣却ノ手續ヲ、破損品又ニ毀損品ハ修繕ノ手續ヲ爲スベシ

修繕ヲ加フルモ使用ニ堪エザルモノハ賣却又ハ棄却スルコトヲ得

前二項ノ手續ハ常務理事ノ指揮ニ依ルベシ

## 第七章 帳簿

第十七條 金錢及物品ノ出納ヲ登記スル爲左ノ帳簿ヲ備フルモノトス

一、豫算差引簿

二、現金出納簿

三、物品出納簿

第十八條 現金及有價證券收納ニ關シ受領證簿ヲ備ヘ置クベシ

第八章 雜 則

第十九條 現金及有價證券又ハ物品ノ出納事務ヲ掌ル職員ハ出納ノ責任ヲ負フモノトス

前項ノ職員故意又ハ過失ニ因リ現金、有價證券又ハ物品ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ賠償ノ責ニ任ズルモノトス

第二十條 本規則ニ依リ難キモノアルトキハ特ニ其ノ規定ヲ設クルコトヲ得

附 則

本則ハ昭和十年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

## 五

財團  
法人

## 人口問題研究會會員規則

(昭和十六年四月一日)  
第一條第三條改正

第一條 本會寄附行爲第四章第五條ノ規定ニヨリ特別會員、維持會員、終身會員及通常會員ヲ置ク

特別會員ハ本會ニ功勞アル者又ハ學識名望アル者ニツキ理事會ニ於テ之ヲ推薦シタルモノトス

維持會員ハ本會ノ趣旨ニ賛同シ本會ノ役職員又ハ會員ノ紹介ニ依リ本會ノ事業ヲ援助スル爲一箇年一口金二百圓以上ヲ齎金スルモノトス

終身會員ハ本會ノ役職員又ハ會員ノ紹介ニ依リ一時金五百圓以上ヲ納入シ入會シタルモノトス

通常會員ハ本會ノ趣旨ニ賛同シ本會ノ役職員又ハ會員ノ紹介ニ依リ入會シタルモノトス

第二條 會員ニハ本會發行ノ圖書、定期刊行物其ノ他ノ印刷物ヲ無料又ハ實費ニテ頒布ス

第三條 通常會員ハ會費トシテ年額金五圓ヲ毎年三月末日迄ニ前納スルモノトス但シ新ニ入會シタルトキハ入會ノ日ヨリ一箇月以内ニ會費ヲ納付スルモノトス

第四條 會員ノ住所、氏名ニ異動ヲ生ジタルトキハ直チニ其ノ旨届出ヅルモノトス

第五條 通常會員退會セムトスルトキハ其ノ旨届出ヅルコトヲ要ス此ノ場合ニハ既ニ納入シタル會



費ヲ返還セザルモノトス

第六條 通常會員ニシテ會費ノ納入ヲ怠リタル場合ハ會員タルコトヲ取消スコトアルベシ

附 則

本則ハ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

# 六 顧問及役職員

顧問

顧問

內大臣 侯爵 木戶幸一

顧問

貴族院議員 廣瀨久忠

顧問

衆議院議員 金光庸夫

顧問

九州地方行政協議會會長 吉田茂

役員

會長(理事)

貴族院副議長 侯爵 佐佐木行忠

理事(常務)

井上雅二

理事

經濟學博士 永井亨

理事

貴族院議員 下村宏

理事

東京帝國大學教授 那須皓

農學博士

監	監	理	理	理	理	理	理	理	理
事	事	事	事	事	事	事	事	事	事
		(常務)							

社	貴	厚	厚	衆	日	醫	厚	統	海	究	日	法	貴
第一生命保險相互會社	族院議員	生省人口局長	生省研究所長	議院議員	本厚生協會理事	生科學研究會士	生科學研究會士	計政局長	軍司政長官	族院議員・經濟學博士	本人口問題研究會理事	族院博議士	族院博議士

石	關	小	武	井	吉	林	川	岡	下	山
坂	屋	林	井	野	阪	春	島	田	條	川
泰	貞	尋	群	碩	俊	雄	孝	文	康	端
三	三	次	嗣	哉	藏		彥	秀	鷹	夫

(以上理事登記順)

評議員 評議員 評議員 評議員 評議員 評議員 評議員 評議員 評議員 評議員 評議員 評議員 評議員

貴族院議員公爵岩倉具榮	大東亞省滿洲事務局長 今吉敏雄	厚生省生活局長 石井政一	海軍省兵備局長 保科善四郎	大阪商科大學學士 本庄榮治郎	東京帝國大學教授 戶田貞三	貴族院議員子爵土岐章	北支那開發株式會社 大村清一	調查部部長 岡崎文規	厚生省民族研究所 岡崎文規	經濟民族學博士 奧村喜和男	滿洲國國務院總務廳囑託 小田內通敏	厚學生技監 勝俣稔	北海道帝國大學名譽教授 醫學博士・農學博士 高岡熊雄
-------------	--------------------	-----------------	------------------	-------------------	------------------	------------	-------------------	---------------	------------------	------------------	----------------------	--------------	----------------------------------

評 議 員  
評 議 員  
評 議 員  
評 議 員  
評 議 員  
評 議 員  
評 議 員  
評 議 員  
評 議 員  
評 議 員  
評 議 員  
評 議 員  
評 議 員  
評 議 員  
評 議 員

企畫院次長	醫學博士 勞働科學研究所長	民族研究所第一部長	醫學博士 厚生科學研究所長	醫學博士 厚生科學研究所長	山口縣知事	貴族院議員 子爵	厚生省衛生局長	厚生省勤勞局長	東京帝國大學教授 經濟學博士	東京帝國大學名譽教授 醫學博士	法學博士 大原社會問題研究所長	文學博士 京都帝國大學教授
安倍源基	暉峻義等	小山榮三	古屋芳雄	山崎巖	熊谷憲一	野村益三	灘尾弘吉	中村敬之進	中川友長	永井潛	高野岩三郎	高田保馬

評議員 評議員 評議員 評議員 評議員 評議員 評議員 評議員 評議員 評議員

大東亞省參事官	三重縣知事	經濟學博士	法學博士	早稻田大學教授	慶應義塾大學教授	食糧管理局長官	住宅營團理事	內務省地方局長	中央社會事業協會理事長	大東亞大臣	伯爵
森重干夫	持永義夫	土方成美	鹽澤昌貞	宮島幹之助	湯川元威	北岡壽逸	新居善太郎	赤木朝治	青木一男	馬賴寧	

(以上評議員イロハ順)

職員

幹事

厚生省人口局涵養課長

築誠

幹事

厚生省人口局事務官

長岡篤

幹事

厚生省人口局理事官

岩下諫

幹事

統計局人口課長

福永一郎

書記

家入龍雄

研究員

增田重喜

研究員

厚生省研究所研究官

左右田武夫

研究員

厚生省研究所研究官

館稔

研究員

男爵 荒尾博正

助  
手

研 究 員  
研 究 員  
研 究 員  
研 究 員  
研 究 員

厚生省研究所研究官補  
厚生省研究所研究官  
厚生省研究所研究官  
厚生省研究所研究官  
厚生省研究所研究官

本  
田  
豐  
穂

中 山 良 男  
根 村 當 三 郎  
窪 田 嘉 彰  
上 田 正 夫  
北 山 正 邦



## 七 昭和拾八年度事業計畫

### 一、一般方針

人口民族ニ關シ廣ク我ガ國國策ノ樹立遂行ニ寄與スルヲ主眼トス、之ガタメ基礎的調査研究ヲナスト共ニ具體的調査研究ニ努メ、科學的理論ニ基キ人口民族ニ關スル健全ナル知識思想ノ啓蒙宣傳ヲ圖リ、人口民族政策ノ施設實施ノ促進ニ資スルコト

本年度ニ於テ特ニ重點ヲ置キソノ擴充ヲ期スベキ事業左ノ如シ

(一) 調査研究ニ關シテハ廣ク人口民族關係諸機關トノ聯絡提携ノ強化ヲ計リ、調査研究ノ十全ヲ期スルコト

(二) 實踐的事業ニ關シテハ調査研究ニ基キタル科學的理論ニ依リ、人口民族ノ繁榮ヲ圖ルノ方途ヲ講究シ、啓蒙宣傳事業ノ擴充ヲ圖リ、人口民族ニ關スル健全ナル思想ト國民精神ノ涵養ニ努メ、人口民族政策ノ樹立實施ニ資スルコト

### 二、調査研究

(一) 調査研究ハ左記各項ニ就キ之ヲ行フモノトス

(イ) 人口民族ニ關スル基礎的調査研究

(ロ) 大東亞共榮圈内人口民族ニ關スル調査研究

(ハ) 人口民族政策ノ見地ヨリ見タル國土計畫ニ關スル調査研究

(ニ) 人口民族ノ資質ニ關スル調査研究

(二) 委託調査

關係方面ヨリ人口民族ニ關シ調査研究ノ委託ヲ受ケタル場合ハ之ヲ實施スルト共ニ、他方本會ニ於テ必要ヲ認メタル事項ニ關シテハ隨時適當ナル機關又ハ専門ノ研究者ニ調査研究ヲ委託スルコト

(三) 「健民特別指導地區」ノウチ適當ナル箇所ヲ選ビ、關係當局ト連絡提携シ實地ニ之ヲ調査研究シ人口政策ニ資スルコト

### 三、國內ニ於ケル聯絡

調査研究ノ促進ヲ期スルト共ニ國策ノ樹立實施ノ助長ヲ圖ルタメ、關係官廳殊ニ厚生省當局及ビ

ソノ他關係各種調査機關、專門研究者トノ緊密ナル連絡提携ノ下ニ左ノ諸會合ヲ實施スルコト

(一) 人口民族國策研究委員會ノ開催

本會關係者竝ニ朝野學識經驗者ヲ委員ニ委囑シ、隨時本委員會ヲ開催シ人口民族ニ關スル重要事項ニ就キ研究討議ヲ竭シ、以テ人口民族政策ノ確立實施ニ資スルコト

(二) 人口問題同攻者會合ノ開催

人口民族ニ關スル基本的事項竝ニ時局ニ即應セル諸事項ニ關シ同攻者會合ヲ開催シ、相提携研究ノ促進ニ資スルコト

(三) 人口問題全國協議會ノ開催

本協議會ニ關シテハ逐年盛況ヲ加ヘツツアルニ鑑ミ本年度ニ於テモ更ニ企畫ヲ周密ニシ計畫組織ノ整備ヲ圖リ、以テ效果ノ擴大ヲ期スルコト

(四) 人口問題地方協議會ノ開催

中央、地方ノ聯絡提携ノ緊密化ヲ圖ルト共ニ人口政策施設ノ促進徹底ヲ期スルタメ、主要地方都市ニ於テ本協議會ヲ開催スルコト

#### 四、海外トノ聯絡

日本人口問題研究委員會トモ相協力シ、諸外國殊ニ大東亞各地ニ於ケル關係調査機關、専門研究者トノ聯絡提携ヲ圖リ、資料ノ蒐集、調査研究ノ促進ニ努ムルコト

#### 五、資料ノ蒐集整備

廣ク人口民族ニ關スル資料ノ蒐集整備ニ努ムルコト

#### 六、啓蒙宣傳

人口民族ニ關スル健全ナル知識思想ノ啓蒙宣傳ノタメ左ノ諸事業ヲナシ、人口民族政策施設ノ促進ニ資スルコト

##### (一) 公開講演會ノ開催

人口民族ニ關スル知識ノ普及並ニ人口政策施設ノ促進ヲ期スルタメ、隨時中央又ハ地方ニ於テ公開講演會ヲ開催スルコト

##### (二) 懇談會、講習會ノ開催

中央或ハ地方ニ於テ關係者ヲ集メ、人口民族ニ關シ協議、意見ノ交換、知識ノ普及ヲナスタ

メ懇談會又ハ講習會ヲ開催スルコト

(三) 其ノ他啓蒙宣傳上必要ナル專業ノ實施

人口民族ニ關スル知識思想ノ啓蒙宣傳ヲ圖ルタメ、標語、小冊子ソノ他ノ宣傳印刷物ヲ作成シ之ヲ一般ニ配布スル等、ソノ他適宜ノ方途ヲ講ジ所期ノ目的ヲ達成スルコト

七、出版物ノ刊行

(一) 人口問題資料ノ刊行

本會ニ於テ調査研究シタル結果及ビソノ他重要ナル資料ヲ編輯シ、之ヲ人口問題資料トシテ印刷發行スルコト

(二) 機關誌ノ發行

廣ク人口民族ニ關スル調査研究ヲ促進シ健全ナル知識思想ノ普及ニ資スルタメ、機關誌「人口問題」ノ内容ノ充實ヲ圖ルコト

(三) 人口民族問題叢書ノ發行

人口民族ニ關スル指導者ノ知識ノ充實ヲ圖リ其ノ便宜ニ供スルタメ本叢書ノ發行ヲナスコト

八、政府ニ對スル答申又ハ建議

政府ノ諮問アリタルトキハ之ニ答申ヲナスト共ニ、時局的緊要問題ニ關シテハ隨時政府ニ建議スルコト

九、會員組織ノ擴大強化

隨時本會ノ事業ヲ一般ニ周知セシメ、會員組織ノ擴大強化ヲ圖ルコト

十、其ノ他必要ナル事業

右各項ノ外必要ト認ムル事業ハ隨時計畫ノ上實施スルコト

## 八 主要事業日誌

### 昭和八年度

一、昭和八年十一月 人口問題に關する研究の促進を圖る爲、「我國人口問題の解決方針」なる論題の下に懸賞論文の募集を行ひ、百二十二篇の應募原稿を得、二等三名、三等四名を入選と決定せり。

一、昭和八年十二月十一日 東京朝日講堂に於て第一回人口問題講演會を開催す。

### 昭和九年度

一、昭和九年六月二十一日 大阪市中央公會堂に於て第二回人口問題講演會を開催す。

一、昭和九年十一月七日 内務省第一會議室に於て第一回同攻者會合を開催す。

一、昭和九年十一月二十九日 東京蠶絲會館講堂に於て第三回人口問題講演會を開催す。

一、昭和九年十一月二十九日、三十日、十二月一日 東京蠶絲會館に於てマルサス歿後百年記念人口問題資料展覽會を開催す。

一、昭和十年三月二日 東京蠶絲會館講堂に於て第二回同攻者會合を開催す。

昭和十年度

一、昭和十年六月八日 仙臺市公會堂に於て第四回人口問題講演會を開催す。

一、昭和十年七月六日 内務省第一會議室に於て第三回同攻者會合を開催す。

一、昭和十年八月十四、五兩日 和歌山縣主催人口問題講演會の開催せらるゝに當り經濟學博士永

井理事を派遣せり。

一、昭和十年十一月九日 内務省第三會議室に於て第四回同攻者會合を開催す。

一、昭和十一年一月二十三日 東京軍人會館講堂に於て第五回人口問題講演會を開催す。

一、昭和十一年二月十五日 内務省第二會議室に於て第五回同攻者會合を開催す。

昭和十一年度

一、昭和十一年四月十三日 内閣總理大臣に對し移殖民振興方策に關する建議並に滿洲移民に關す

る建議をなせり。

一、昭和十一年六月十日 福岡市西中洲縣公會堂に於て第六回人口問題講演會を開催す。



一、昭和十一年十月二十八日 内務省第三會議室に於て第六回同攻者會合を開催す。

一、昭和十一年十二月十日 東京蠶絲會館講堂に於て第七回人口問題講演會を前會長故柳澤伯爵追悼記念事業の一として開催す。

一、昭和十二年三月六日 内務省第二會議室に於て第七回同攻者會合を開催す。

### 昭和十二年度

一、昭和十二年六月十二日 廣島市廣島縣高女講堂に於て第八回人口問題講演會を開催す。

一、昭和十二年七月二十一日 内閣統計局及び内務省社會局援助の下に本會及び社團法人東京統計協會の二團體を中心として日本人口問題研究委員會成立し同會は直に人口問題國際聯合に對し日本の加入申込の手續を行ひ井上常務理事を巴里國際人口會議の日本代表に決定せり。

一、昭和十二年七月二十九日 巴里市に於て開催の國際人口會議に井上常務理事出席す。

一、昭和十二年十月九日 内務省第二會議室に於て第八回同攻者會合を開催す。

一、昭和十二年十一月四、五兩日 東京一橋講堂及如水會館に於て第一回人口問題全國協議會を開催す。

一、昭和十二年十一月四日 東京一橋講堂に於て第九回人口問題講演會を第一回人口問題全國協議會開催記念として開催す。

一、昭和十二年十一月五日 第一回人口問題全國協議會に提示されたる政府諮問事項「現下我が國ニ於ケル勞働力ノ需給調整上竝ニ之ヲ維持涵養上特ニ注意スベキ點」に關し厚生大臣に對し答甲をなせり。

一、昭和十二年十一月五日 第一回人口問題全國協議會總會の決會の決議により政府に對し人口問題に關する國立常設調査機關設置の建議をなせり。

### 昭和十三年度

一、昭和十三年五月七日 厚生省第一會議室に於て第九回同攻者會合を開催す。

一、昭和十三年六月十一日 金澤市石川縣縣會議事堂に於て第十回人口問題講演會を開催す。

一、昭和十三年十月一日 厚生省第一會議室に於て第十回同攻者會合を開催す。

一、昭和十三年十月二十六日 內閣總理大臣に對し人口問題に關する國立常設調査機關設置の建議をなせり。

一、昭和十三年十月二十九、三十兩日 東京一橋講堂及如水會館に於て第二回人口問題全國協議會を開催す。

一、昭和十三年十月三十日 第二回人口問題全國協議會に提示されたる政府諮問事項「我が國人口政策上事變下ニ於テ特ニ注意スベキ點」に關し厚生大臣に對し答申をなせり。

一、昭和十三年十月三十日 第二回人口問題全國協議會總會の決議により政府に對し人口問題に關する國立常設調査機關設置の建議をなせり。

一、昭和十四年二月十七日 東京軍人會館に於て第十一回人口問題講演會を開催す。

一、昭和十四年二月十八日 厚生省第一會議室に於て第十一同攻者會合を開催す。

#### 昭和十四年度

一、昭和十四年六月八日 札幌市公會堂に於て第十二回人口問題講演會を開催す。

一、昭和十四年六月二十八日 内閣總理大臣、各省大臣、企畫院總裁並に興亞院總裁に對し現下人口問題の緊要なる事項に關し建議をなせり。

一、昭和十四年十一月 横濱市神奈川高等女學校主催の展覽會に統計圖表を出品せり。

一、昭和十四年十一月二日より十二月三日まで、日本學術振興會、日本民族衛生協會、日本精神衛生協會、日本赤十字社共催の「日本民族優生展覽會」に人口問題研究所と共同にて十三點の圖表を出品せり。

一、昭和十四年十一月六、七兩日 東京一橋講堂及如水會館に於て第三回人口問題全國協議會を開催す。

一、昭和十四年十一月七日 第三回人口問題全國協議會に提示されたる政府諮問事項「現下ノ時局ニ鑑ミ人口政策ノ見地ヨリ國民生活安定ニ關シ特に留意スベキ點」に就き厚生大臣に對し答申をなせり。

一、昭和十五年三月十五日 内閣總理大臣、各省大臣、企畫院總裁、貴族院及衆議院に對し優生政策確立に關する建議をなせり。

### 昭和十五年度

一、昭和十五年六月一日より四日まで、富山縣女子師範學校並に縣立富山高等女學校に於て體育衛生並家事科展覽會開催せらるゝに當り人口問題研究所と共同にて人口問題統計資料の出品をなせ

り。

一、昭和十五年六月十日 松山市廳ホールに於て第十三回人口問題講演會を開催す。

一、昭和十五年十一月十四、十五兩日 東京一橋講堂及如水會館に於て紀元二千六百年記念第四回人口問題全國協議會を開催す。

一、昭和十五年十一月十五日 紀元二千六百年記念第四回人口問題全國協議會に提示されたる政府

諮問事項「國土計畫上人口政策ノ見地ヨリ考慮スベキ點」に就き厚生大臣に對し答申をなせり。

一、昭和十六年二月八日 厚生省大會議室に於て第十二回同攻者會合を開催す。

#### 昭和十六年度

一、昭和十六年六月六、七兩日 仙臺市齋藤報恩會館講堂に於て人口問題東北地方協議會を開催す。

一、昭和十六年六月七日 仙臺市齋藤報恩會館講堂に於て第十四回人口問題講演會を開催す。

一、昭和十六年六月七日 盛岡市岩手縣公會堂に於て第十五回人口問題講演會を開催す。

一、昭和十六年六月八日 山形市第一國民學校講堂に於て第十六回人口問題講演會を開催す。

- 一、昭和十六年六月八日 青森市公會堂に於て第十七回人口問題講演會を開催す。
- 二、昭和十六年九月二十七日 厚生省大會議室に於て第十三回同攻者會合を開催す。
- 一、昭和十六年十一月十四、十五兩日 東京一橋講堂及如水會館に於て第五回人口問題全國協議會を開催す。

一、昭和十六年十一月十五日 第五回人口問題全國協議會の決議により内閣總理大臣、各省大臣、企畫院總裁、興亞院總裁及情報局總裁に對し「人口政策實施促進ニ關スル件」に就き建議す。

### 昭和十七年度

- 一、昭和十七年六月六日 厚生省大會議室に於て第十四回人口問題同攻者會合を開催す。
- 一、昭和十七年六月二十九日 大分縣廳正廳に於て人口問題懇談會を開催す。
- 一、昭和十七年七月二十九日 大分縣教育會館講堂に於て第十八回人口問題講演會を開催す。
- 一、昭和十七年七月一日 熊本縣廳正廳に於て人口問題懇談會を開催す。
- 一、昭和十七年七月一日 熊本市公會堂に於て第十九回人口問題講演會を開催す。
- 一、昭和十七年七月三日 佐賀縣會議事堂に於て人口問題懇談會を開催す。

一、昭和十七年七月三日 佐賀市公會堂に於て第二十回人口問題講演會を開催す。

一、昭和十七年七月六日 長崎會館に於て人口問題懇談會を開催す。

一、昭和十七年七月六日 長崎會館に於て第二十一回人口問題講演會を開催す。

一、昭和十七年九月十二日 厚生省大會議室に於て第十五回人口問題同攻者會合を開催す。

一、昭和十七年十一月十三、十四兩日 東京一橋講堂及如水會館に於て第六回人口問題全國協議會を開催す。

一、昭和十七年十一月十四日 第六回人口問題全國協議會の決議により内閣總理大臣、各省大臣、企畫院總裁、法制局長官及内閣書記官長に對し大東亞建設に處する民族人口政策に關する件並に結婚促進に關する件に就き建議す。

一、昭和十七年十一月十四日 第六回人口問題全國協議會の決議により人口の都市配置に關する繼續委員會を設置す。

## 九 既刊圖書總覽

### 人口問題資料

#### 第一輯 人口問題講演集（第一輯）

我が國人口問題の將來（上田貞次郎） 滿洲問題と人口問題（下村宏） 過剩人口か失業か（永井亨）——昭和九年四月二〇日

#### 第二輯 日本人口密度圖

昭和九年七月二〇日

#### 第三輯 我國人口問題の解決方針

懸賞論文集——昭和九年一〇月一日

#### 第四輯 人口問題講演集（第二輯）

米穀問題と人口問題（那須皓） 生活標準と人口問題（高田保馬） 維新前の人口問題（本庄榮治郎）——昭和九年一月一〇日

#### 第五輯 一九三二年ローマ國際人口會議資料（第一輯）

歐洲人口の將來（フェルナン・ボブラ） 人口の將來の發展の豫測（ビー・ケー・ホエルプトン） イタリー人



口將來の發展に關する經濟的社會的考察（アルビーノ・ウツヂエ）人口の質及量に關するムツソリーニの對策（ガエターノ・ジンガーリ）人口と繁榮（ハウアド・ウルストン）人口の均衡と最適度（ラダカマル・ムケイ）人口と合理化（ルシア・マルシユ）財政政策と人口政策（マリオ・ブリエーゼ）法制の人口發展に及ぼせる影響（フランソア・マーサル）人口増加の停止が及ぼす社會的及び經濟的結果（ジョージフ・ジェー・スペングラー）一九三〇年度農業職業調査より觀たる農村退去と土地への歸農（オッタヴィオ・スクリットーレ）十九世紀に於ける佛國農村離村狀況（ガストン・リシャルル）一八七〇年以來の農業國及び工業國に於ける結婚曲線（エ・ワーゲマン）最近五十年間ロツテルダムに於ける階級別竝宗教別出生の低下（ジ・サンデルス）イタリーの地域別に見たる出生率と職業（ソモジー及ヴェロネーゼ）出生率減少と死亡率減少との關係（ヂオルヂオ・モルターラ）死亡率に及ぼす人口變化の影響（ヘンリ・ブラット・フェヤチャイルド）乳兒及び幼兒の死亡率の分析及び其の結果として生ずる問題（ロツト及マイエル）人間の壽命竝に其の統計的及び個體的判定（フェリツクス・ベルンシュタイン）印度の人口過剩問題（ラヂャユ・カンタ・ダス）——昭和一〇年六月一七日

### 第七輯 マルサス歿後百年記念人口問題資料展覽會寫眞集

昭和一〇年一月二十九日

### 第八輯 マルサスに關する文獻集

吉田秀夫編——昭和一〇年七月三〇日

## 第九輯 東北地方の人口に関する調査

昭和一〇年五月五日

## 第一輯 東北地方の産業と人口

第二回人口問題同政者會合記録 東北六縣の産業と人口の自然増加並に流出人口（那須皓・神谷慶治）

地方に於ける人口現象一般（上田貞次郎）東北地方凶作と人口地理學的問題（田中館秀三）東北農業の現發  
展段階と人口支持力の關係（青鹿四郎）東北地方の人口移動と其の要因（井上謙二）東北地方に於ける人口  
指數の地域的意義（佐々木清治）——昭和一〇年一〇月二日

## 第二輯 人口問題講演集（第四輯）

人口問題と移住民（矢内原忠雄）醫學上より見たる我が國の人口問題（宮島幹之助）東北人口と滿洲農業移  
民間問題（那須皓）——昭和一二四年四月二日

## 第三輯 本邦人口増加の傾向及び數量的變動に就いて

昭和一〇年九月二五日

## 第四輯 我國人口問題に関する諸研究

第三回人口問題同政者會合記録 過剩人口と失業との關係に就いて（永井亨）人口問題の理論上の意義（上

田貞次郎) 家族と人口 (米林富男) 北海道日本海斜面に於ける二三の人口現象主として人口減少に就いて (川口丈夫) 人類死亡率に關する進化論的考察 (大西清治) 季節別死亡率の研究に對する地理的地域の交渉 (三澤勝衛) 昭和五年日本全國町村別人口密度分布に就いて (井上修次) —— 昭和十一年三月二十九日

### 第一五輯 道府縣別農業本業者數及其年齡構成

上田貞次郎理事報告 —— 昭和十一年四月八日

### 第一六輯 支那人口問題研究

飯田茂三郎著 —— 昭和十一年二月九日

### 第一七輯 都鄙人口に關する諸問題

第四・五回人口問題同攻者會合記錄 勞働人口の移動と小作關係 (渡邊信一) 地方財政調整交付金の配分標準に就いて (猪間驥一) 都市農村人口の環流現象と失業問題 (中澤辨次郎) 本邦都市と田園との社會生態學的の考察 (西野入徳) 東京府壯丁の數及び質の趨勢 (徳村謙吉) 東京市に於ける家族の出産力 (豊浦淺吉) —— 昭和十一年八月二十六日

### 第二輯 人口問題の見地より見たる國民保健問題

第六回人口問題同攻者會合記錄 癩の問題 (下村宏) 國民保健の現状 (南崎雄七) 人口問題と國民保健問題 (徳村謙吉) —— 昭和十一年二月十九日

第二輯 人口問題講演集（第七輯）

前會長故柳澤保憲伯爵追悼紀念人口問題講演會記錄 人口問題と國際關係の動向（那須晴） 現下の人口問題  
 と社會政策（永井亨） 人口問題より見たる日本と獨逸（下村宏） 人口問題と南方諸民族（井上雅二）——昭  
 和一二年四月三〇日

第二四輯 Population of Japan

昭和一二年六月一八日

第二五輯 日本の人口

昭和一二年一〇月一日

第二七輯 「世界人口の動向」並に「生産力擴充と勞働人口」

第八回人口問題同攻者會合記錄 歐洲諸國に於ける人口問題（長瀬恒藏） 世界の人口と現狀打開運動（吉阪  
 俊藏） 農耕地の生産力擴充と勞働人口（戸倉莞爾） 我國最近の勞働市場と其の對策に就て（美濃口時次郎）

——昭和一三年九月一五日

第二八輯 第一回人口問題全國協議會概報

昭和一二二二二二日

第三〇輯 第一回人口問題全國協議會報告書

自然民族に於ける人口問題（小山榮三）明治初年の人口論者（吉田秀夫）華族に關する統計調査に就て（阪本敦）適度人口に就て（中山伊知郎）人口の度數分布型に就て（井上謙二）明治年間に於ける日本人口の地域的變化（石田龍次郎）出生統計に於ける解析的方法（川上理一）徳川時代以前の人口の歴史的研究の困難（高橋梵仙）維新前の人口調査に關する諸問題（徳田彦安）北支の人口に就て（高須虎六）我が國人口分散の問題（豊浦淺吉）アメリカに於ける人口動態の社會的構造（早瀬利雄）十八世紀の都鄙人口周流に就て（青盛和雄）都鄙別人口更新の差異——聯關する二三の問題に就て——（林惠海）向都離村人口の統計的分析法（猪間驥一）人口再分布技術としての都市計畫の能力限界（石川榮燿）農村人口流出に就て——福井縣今立郡北新庄村を一例として（神谷慶治）都市及農村人口問題の一考察（中澤辨次郎）農村人口過剩現象の諸相（野間海造）生態學と人口理論（清水達夫）所謂農村勞力不足の意味（渡邊信一）人口密度の地形的分析の一例（田中館秀三）農村過剩人口對策（上村藤若）季節的人口移動の二例（1）越後の杜氏（2）咸北の越境耕作（武見芳二）農業の展開と人口支持力の動向（青鹿四郎）最近の勞力問題（井口東輔）商業勞働人口（稻葉秀三）歐洲大戰中に於けるイギリスの勞働統制（川崎巳三郎）産業の發達と職業指導（水野常吉）人口問題と生計費（岡崎文規）勞働人口の構成（増田裕治）内地に於ける食糧資源開發の新しき方策に就て（賀川豐彦）最近に於ける勞働市場（美濃口時次郎）人口膨脹と産業發展並に生存力との相互關係及び限界（高木友三郎）我が國炭坑業に於ける勞力組成の變化（小田橋貞壽）日本移民の國際的意義（出井盛

之) 國民教育としての移植民の基礎訓練(加藤梅四郎) 移住地政策に就て(金田近二) 内地在住半島人に就て(武田行雄) 大阪府下在住朝鮮人問題と其の對策の概況(賀來才二郎) 人口と植民地問題(市村今朝藏) 滿洲移民地の地理學的諸問題(田口稔) 滿洲移民の基礎的調査研究(善生永助) 移住青年指導の一報告(木内謙一) フェルナン・モウレット氏の觀たる「ブラジルの人口・經濟・移民問題」紹介批判(岡本和夫) 南洋特に比律賓に於ける邦人移民問題——第二世教育問題を中心として——(三田村一郎) 植民地再分配論に就て(小田部謙一) 移植民と宗教の問題(淺野研眞) 滿蒙移民には農地の無償交附を要す(宗正雄) 移植民教育と移民の保護に就て(若尾金造) 邦人の移民國策と滿洲産業開發五ヶ年計畫(幸福三樹夫) 精神衛生對策(青木延春) スポーツと國民體位の向上(藤田進一郎) 國民保健問題中犯罪に關し遺傳と環境(橋本勝太郎) 凶作による榮養不給が罹災民の體位に及ぼす影響(原徹一) 兒童及少年に及ぼしたる世界大戰の影響(早崎八洲) 商業階級と保健問題(井上貞藏) 市部と郡部に於ける年齢別性別結核死亡率の差異に就て(梶原三郎) 農村結核と戦後の豫想(古屋芳雄) 勞働階級の疾病檢診に於ける感想(馬島佃) 乳兒死亡の調査の結果に行動を附與する方法に就て(丸山博) 榮養が動物の繁殖に及ぼす影響に就て(松室秀夫) 産兒制限と保健(西野入徳) 我が國民の死亡原因(南崎雄七) 我が國の疾病統計に現れた罹病率に就て(中山照夫) 結核症の概念に錯誤なきや(岡治道) 本邦勞働人口の推移(大西清治) 榮養と妊娠の關係(佐伯矩) 戦争と結核(高野六郎) 乳幼兒保健問題(齋藤潔) 犯罪者の研究(吉益脩夫) 保健政策としての健康保險制度に就て

(長瀬恒藏) 日本人の勞働壽命に就て (西野陸夫) —— 昭和一三年一〇月一日

### 第三四輯 第二回人口問題全國協議會概報

昭和一三年一月二日

### 第三五輯 第二回人口問題全國協議會報告書

人口學と社會形態學 (淺野研眞) 乳兒死亡と安定率に就て (早崎八洲) 東北各藩の人口政策 (高橋梵仙) 支那上代に於ける人口論 (加藤梅四郎) 都市人口と乗車回數との關係に就て (金谷重義) 過去三百年來の能登舳倉島漁民の人口に就て (小山嘉壽樂) アメリカ黑人問題に現れたる異人種異民族待遇の問題 (市川泰次郎) 人口増加の原則と道德的生活基準 (黒野張良) 大戰當時に於けるドイツ諸學者の人口問題觀 (南亮三郎) 日本本土に於ける人口密度の地形的分析 (田中館秀三) 男女出生比に及ぼす戰爭の影響 (寺尾琢磨) 徳川時代農村人口の一面 (内田寛一) 白人種の將來と伊太利の人口政策 (吉阪俊藏) 維新前の人口問題 (徳田彦安) 女子人口勢力の質的向上に就て (渡邊輝一) 東京市來住人口の解説批判 (青盛和雄) 國民體位低下對策に關する一考察 (中澤辨治郎) 朝鮮の勞働資源 (朝倉昇) 我民族海外發展の一重石第二世の問題若干 (半澤耕貫) 北支に於ける産業開發と人口政策の將來 (三好豐太郎) イスラム地方の人口増加に就て (匝瑳胤次) 民族の移動とその適正に關する人類學的考察 (持田三郎) 我大陸政策の個性 (中村良之助) 出生減退と羅馬帝國の滅亡 (西野入徳) 外國に於て活動する大和民族の國籍に就て (野田良治) 北支開發と人口對策

(善生永助) 在滿邦人の地理的分布(田口稔) 半島人労働者内地渡航の必然的傾向(武田行雄) 滿洲國の工業的發展が大和民族に及ぼす影響(宗正雄) 回教徒の問題に就て(大久保幸次) 事變に現れたる支那人世界觀(大谷孝太郎) 大陸人口論(郡菊之助) 南米諸國の移民政策に就て(岡本和夫) 滿洲移民と生活教育(丸本彰造) 民族の同化と都鄙の環境(秋葉隆) 農業労働人口の減少と農業生産力の擴充(吉岡金市) 産業構成的變化と農業人口(井上謙二) 人口分布の據點としての都市の諸性質(石川榮耀) 秋田縣由利郡東瀧澤村農業出身者の職業離村に關する調査研究(林惠海) 最近に於ける工業人口の産業別構成の變動に就て(川崎巳三郎) 香川縣の村落人口の飽和狀態と分村計畫(桑島安太郎) 事變下の農村労働力問題と分村計畫(宮出秀雄) 農村労働流出年齢層と男女流出型に就て(野尻重雄) 炭坑労働と農村(小田橋貞壽) 北地開拓の人的資源として見たる東北地方山村の出稼(島田錦藏) 東北地方農村の農業労働力に就て(内海義夫) 人口の都鄙交流に於ける地方農漁村人口移動の一例(山口孝義) 東京市人口の更新(豊浦淺吉) 農村流出人口の行衛(野間海造) 農村工業に關する一研究(山下英夫) 滿洲移民と分村計畫(安井誠一郎) マルティエイブライヤーの理論のドイツに於ける一應用例(中山伊知郎) 都市人口の消耗に關する問題(磯村英一) 最近一ケ年間に於ける生計費指數の推移と國民生活(永野順造) 社會淘汰と人口問題(難波紋吉) 農村の結核禍(古屋芳雄) 飲食料費と榮養(岡崎文規) 軍需工業に偏したる跛行景氣の調整問題(柴田銀次郎) 中小工業の現情と國民保健問題(吉田秀夫) 社會現象としての乳兒死亡率(松本良三) 本郡に見る出生性此の月別移動に就て



(相澤憲) 戦時の性比(立川清) 出生間隔に就て(塚原寛一) 本邦婦人の妊孕率に關する研究(篠田糺) 中支二・三農村地方に於て調査せる支那人の婚姻及び子女數に就て(小山義孝) 乳兒死亡の強度を示す統計値に就て(丸山博) 要保護階層者の強病率並に正當なる診療日數に就て(飯村保三) 本邦に於ける寄生蟲病蔓延の現況と其の豫防撲滅策に就て(木村猛明) 日本癩患者數と其の増減及他民族との比較(林文雄) 熱源性物質の創傷治愈に及ぼす影響(速水決・大磯敏雄・福井忠孝) 朝鮮住民の生命表(水島治夫) 斷種制度の遺傳學的基礎(青木延春) 産業の發展と遺傳學(木原均) 産業労働者の健康狀態に就て(引地亮太郎) 農業労働力損耗の一原因としての疾病に就て(暉峻義等) 河豚中毒の豫防(福田得志) 慢性麻藥中毒症の治療(酒井由夫) 米國生れの日本人の體格(石原房雄) 労働者の缺勤率に關する研究(大西清治) 國民體位低下對策としての身體檢査成績の活用(竹内茂代) 都市青少年の體育問題(野津謙) 戦時體制下に於ける兒童保護の憲義に就て(西野陸夫) 麥のビタミンB<sub>1</sub>含有量並に米との比較(佐伯矩・松室秀夫・大磯敏雄) —— 昭和  
一四年一二月二五日

### 第三六輯 人口問題講演集(第十一輯)

我が國現下の人口問題(上田貞次郎) 民族興亡論(今井登志喜) 農村人口の生物學的危機(古屋芳雄) ——  
昭和一四年九月一八日

### 第三九輯 第三回人口問題全國協議會概報

昭和十五年五月三十一日

五四

#### 第四〇輯 第三回人口問題全國協議會報告書

J・F・スタイナー博士の「日本人口政策論」とその批判（早瀬利雄）新田開發村の人口構成に關する一報告（石田龍次郎）岐阜縣村落人口に就て（羽倉儀三郎）周禮に表はれたる人口政策（加藤梅四郎）教育人口の問題（城戸幡太郎）各國に於ける最近の人口政策（北岡壽逸）我が國極限人口に關する一考察（水垣武雄）獨逸人口政策の成果（森田優三）社會周流と人口構成（難波紋吉）ギリシヤの興亡と人口（西野入徳）出生率低下の傾向とその對策に就て（大場實治）現下上から見た人口問題及今後の教育方針に就て（野口授太郎）人口と家の經濟（大泉行雄）徳川時代農村人口増減の一面（内田寛一）日本人口史上の疑問二件（上田貞次郎）歐米各國と比較したる日本人の生物學的考察（渡邊定）國民人口再組織問題の一項として見たる指導者層（渡邊輝一）農業人口と栽培物との關係の一般的研究（江澤讓爾）大和民族發展上より見たる在外同胞第二世の將來（小島憲）日本民族主義に就て（小岩井淨）蒙疆人口問題に關する一考察（小林宗三郎）支那特に中支地方に於ける拓殖衛生上の諸對策（小宮義孝）在鮮四十年間の内地日本人増殖力（古屋芳雄）比律賓に於ける邦人の分布並に活動狀態（三吉朋十）比律賓民族に於ける宗教の意義（棚瀬襄爾）外南洋に於ける邦人發展と第二世教育問題（小山嘉壽榮）東亞新秩序の建設の見地より見たる民族問題（山本勝市）民族政策の意義（金田近二）植民と文化（若木禮）臺灣原住民族人口の水平的並に垂直的分布（鹿野忠雄）日本人

の智能に關する研究（田中憲一）我が國外地移民の成績（善生永助）日本民族の結婚に就て（高木友三郎）滿洲を中心とする重亞諸民族の農業（渡部侃）滿洲國少數種族の減退（田口稔）南洋群島及北島ダバオに於ける邦人―特に沖繩縣人の人口狀態と其の活動（永丘智太郎）民族問題に關する所感（下村安）農村人口増加力の減衰と其の原因に就て（井上謙二）我が國に於ける所謂過大都市に就て（吉田秀夫）分村計畫に關する一研究（犬丸秀雄）大東京地方計畫方法論（石川榮耀）人口統計に於ける産業及職業分類（近藤康男・鈴木稔）事變下の青少年勞力の動向と農業勞働（宮出秀雄）鑛山勞務者の移動に就て（三好豐太郎）我が國農家の統計的分析（長畑健二・北川幸吉）ブラジルに於ける邦人自作農並借地農棉作者の生産層比較及勞力分配に關する研究（中村誠）事變下に於ける農業勞働人口構成の變化と農業生産機構の變質（吉岡金市）農村流出勞働層と出産死亡との關係（野尻重雄）資源配置問題の基本構造（大熊信行）商業に於ける過剩人口の意義（竹林庄太郎）人口都市集中に關する問題（山中篤太郎）本邦重工業國化過程に起る農村人口關係の諸現象に就て（中澤辨治郎）傷痍軍人と職業能力（赤松清一郎）戰時國民生活と社會保險の一課題（服部英太郎）戰時下に於ける住宅問題（川上賢叟）家族負擔均衡の二緊急問題（ヨハネス・クラウス）經營體に於ける人口政策的給與（孝橋正一）事變の人口形態に及ぼしたる影響（磯村英一）物資源の愛護と生活必需品の制限とに就て（黒野張良）都市要保護階級生計費に於ける實支出中飲食物費の割合に就て（牧賢一）戰時人口政策の基準（青盛和雄）戰時に於ける人間再生産問題（南亮三郎）事變下母子保護機關に對する所見（持

田三郎) 國民生活問題 (永野順造) 郵便貯金の示唆する現下人口問題の動向 (杉山和男) 景氣變動と人口  
態 (高橋次郎) 業態別出生率と厚生條件としての合理的退職年齡 (阿部和雄) 決定された壯丁癩曲線と全國  
推定癩患者數 (林文雄) 異狀兒人口と鑑別標準 (三木安正) 戦時に於ける禁酒政策の展開 (小鹽完次) 民族  
衛生學の體系に就て (川上理一) 救療階級新産兒發育に關する研究 (岩田正道) 貧富の差に依る初産婦の結  
婚年齡並に其の分娩經過に就て (糸井一良) 本邦婦人の年齢別生産受胎率に就て (久保秀史) 壯丁體位向上  
人的資源の充實と農村玉蜀黍食との關係 (丸本彰造) 生活環境と身體の形態並に機能との關係に就て (石川  
知福・白井伊三郎) 國民の體位向上と水産食糧 (飯田照夫) 國民體位に及ぼす凶作の影響に就て再論す (原  
徹一) 榮養の改善と體位向上 (樋口太郎) 白米食禁止に必要な米の科學的檢定法 (佐伯矩) 米の新古と搗  
精度に依るビタミンB<sub>1</sub>含有量の變化 (松室秀夫・大磯敏雄) 人口問題と農村の現狀に就て (紀本參次郎)  
農村の體育問題 (野津謙) 人口問題の數に關する生物學的一考察 (齋藤潔) 統計上より見たる本邦の下痢及  
腸炎 (井村孝全) 民族優生と斷種法 (田口英太郎) 民族優生制度要綱案に就て (大橋政雄) 東北地方の配偶  
妊娠率と生産育兒率 (篠田紘) 家庭に於ける子供の數と其の質の問題 (山川俊郎) 人的資源確保より見たる  
異常者 (川本宇之助) 結婚適齡期の決定 (竹内茂代) 農繁期に於ける農家共同炊事の村民健康上に及ぼす救  
果の一例 (外岡和雄) 農村の兒童と保育問題 (谷口正弘) 農村人的資源確保策としての社會保健婦制度 (西  
野陸夫) 日本婦人の妊娠閉止年齡限界の統計的研究 (阿部利雄) 乳兒死亡指數アルファ・インデックスの季

節的變動（丸山博）——昭和一六年一月一日

#### 第四一輯 人口問題講演集（第十三輯）

現下の人口問題（北岡壽逸）人口と優生（高野六郎）民族國策と人口問題（古屋芳雄）——昭和一五年九月一〇日

#### 第四二輯 紀元二千六百年記念第四回人口問題全國協議會概報

昭和一六年一月一日

#### 第四三輯ノ一 人口・民族・國土

紀元二千六百年記念人口問題全國協議會報告書・上 東亞新秩序と日本人口（西野入徳）ワインベルグ遺傳統計の批判（津川武一）日本人口の將來豫測（川上理一・久保秀史）人口調査新方式試案（井上謙二）人口問題研究に有用なる諸數値に就て（小野勝次）富の分布の公式について（伊藤清）日本人の高死亡率原因とその死亡率低下可能限度の考察（渡邊定）最近本邦に於ける人口自然増加率の種々相（水島治夫）フランスの人口減少に就て（ヨハネス・ベ・クラウス）戰爭の人口現象に及ぼす影響（布川孫市）戰爭と男兒出生率（中山安・木口駿三）戰爭と亡命避難民（出井盛之）栃木縣に於ける死産高率の實相（加地成雄）本邦肺結核死亡の時系列に關する統計的解析（吉岡博人・有村義男）周禮より見たる支那古代土地人口に就ての私見（加藤梅四郎）支那農村人口の家族構成（柴三九雄）徳川時代の全國人口に就ての私見（高橋梵仙）徳川時

代農村人口の一面（内田寛一）江戸の町人口に關する一考察（鷹見安二郎）本邦最近五ヶ年間の乳兒死亡率アルファ・インデックスに就て（丸山博）北陸三縣特に石川縣に於ける内地間人口移動の特殊性傾向と結核死亡率との關係（有馬宗雄）實的人口政策の若干問題（寺尾琢磨）國防國家建設と人的資源の應急擴充策（宇原義豊）皇道主義植民政策（河合弘道）植民の價値の評價に就て（若木禮）世界新體制と人類平等（野田良治）日本移民に對する私見の一斑（飯本信之）東亞諸地域に於ける日本人の人口動態（濱井生三）東亞細亞の人類の基底とその地政的統一性（江澤讓爾）在臺内地人及臺灣本島人の自然的人口増加に關する批判的考察（曾田長宗）臺灣に於ける内地人農業移民の實績と南洋開拓（宗正雄）近き將來に於ける朝鮮人口の豫測（原藤周衛）滿洲開拓の現段階に於ける若干の問題（小寺廉吉）開拓民並に義勇隊の内地送出事情（尾崎脩四郎）白系露人の北滿に於ける部落建設の過程について（陣峻義等）滿洲産業開發と勞力問題（善生永助）日支混血兒童の醫學的調査（石原房雄）珠江蛋民の體質（忽那將愛）蘭領東印度の人類構造（西村朝日太郎）日本民族と南方植民（伊藤兆司）南方政策の再吟味（中村良之助）日本人の熱帯植民能力（野間海造）比律賓在留邦人今昔の感（三吉朋十）南洋群島開拓農村の現狀について（花井重次）日本民族の北方性（伊藤綠良）我國の人口問題と國土經綸の史的考察（板井申生）國土計畫に對する社會學的反省（奥井復太郎）國土計畫と地方計畫（中田理夫）國土計畫の主要課題（石川榮耀）國土計畫に於ける内地農村の取扱に就いて（小林平左衛門）帝都人口給養の安全に資する國土計畫の必要性和その一案（外岡和雄）都市不良

住宅地區に於ける人口構成（渡邊萬壽太郎） 勞働力の都市集中化並に産業地帯別に見たる人口現象に就て（小幡佐七） 日本農村の人口過剩問題（田中館秀三） 分村計畫と適正規模（鈴木利直） 農村に於ける死亡狀態の一例（山口彌一郎） 勞働者結核の社會的經濟的考察（佐藤正） 米穀増産根本對策（徳村謙吉） 時局下農家勞働移動の促進過程（野尻重雄） 良兵產出地帯の青少年人口調査（宮出秀雄） 莊内海岸地域に於ける季節的漁業出稼發生に關する歴史地理學的一考察（佐藤甚次郎） 新潟縣の出稼女工供給地域について（合田榮作） 勞働力の構成要素について（三好豐太郎） 勞働人口の發展傾向（孝橋正一） 勞働力需給に關する件について（鶴田範壽） 中小商業轉失業問題の發生の根據（高橋次郎） 中小工業再編成の方向について（大内經雄） 國土計畫と大都市疎開の一考察（金谷重義）——昭和一七年五月三日

#### 第四三輯ノ二 國民資質・國民生活

紀元二千六百年記念第四回人口問題全國協議會報告書・下 吾教室に於ける出産調査成績・吾教室に於ける分娩前後の母兒死亡の統計觀察（瀨木三雄・佐藤美實・勝野六郎） 吾教室に於ける早産兒（未熟兒）の統計觀察（永田守一・勝野六郎） 東北地方の生産力に關する研究（篠田純） 農村に於ける乳兒の發育經過と母乳不足の現狀に就て（小宮山新一） 乳兒の人工榮養に就て（宇留野勝正） 岐阜縣坂祝村の環境調査成績（内藤壽七郎） 都鄙別に見たる乳幼兒の身體發育狀況について（西野陸夫・谷口正弘・横田年・笠間尙武） 佐賀縣に於ける乳兒死亡の統計的觀察（鎌山榮） 宇和島地方に於ける結核家族の檢診成績（矢ヶ崎徳藏） 巡回看護の作

業と成績に關する考察（飯村保三）女子醫學專門學校生徒の罹病狀態に關する調査研究（吉岡博人・立野君子）最近に於ける女學校生徒體格の全國的平均變遷傾向に就て（竹内茂代）大阪に於ける中小工業少年勞務者の保健狀態について（黒田誠治）宮崎縣純農業青年の體格と發育（森末新）戰時下婦人勞働に關する一考察（吉江良信）勞務婦人に關する調査（佐藤美實）生産擴充に及ぼせる禁酒の救果に就て（小鹽完次）青年死亡率に就て（勝木新次）疾病より觀たる日華兩民族の差異に關する二、三の考察（小宮義孝）齶齒蔓延狀況について（高木圭二郎）農村に於ける母子保護に就て（谷口正弘）母乳保存運動の提唱（松林爾三）千葉・埼玉縣に於ける部落調査研究（青木延春・津川武一）東京市に於ける血族結婚の頻度（立川清・桑原麟兒）國民優生法について（床次徳二）國民優生法の對象たる疾患について（青木延春・大橋政雄）精神病の遺傳と大和民族の質的保護（池見猛）性病蔓延の現狀より人的資源の損耗を論ず（石橋卯吉・大橋政雄）娼妓の妊娠と其の經過について（三輪春雄）人口増殖障礙たる賣笑問題（草間八十雄）性病と人口問題（櫻根好之助）先天性微毒兒群（家族微毒）の運命及其の對策（松坂義正）日本癩死亡統計の誤謬とその訂正（林文雄）戰爭と家の經濟（大泉行雄）世帯に就いて（永野順造）年金制度の效能書（松本浩太郎）年金者の生命に關する研究（中村清）郵便貯金に於ける都市對村落（杉山和男）食生活と新體制（佐伯矩）非常時下に起り易き榮養障礙（速水決）外米の榮養學的檢討（田村益之輔）新體制と主食の形態（丸本彰造）代用食に對する條件と方策（樋口太郎）最低榮養要求量（藤本蕪喜）國民食糧の榮養學的檢討（加藤正吉）國民食



糧の基準に就て（志村茂治）人口問題と食物（櫻澤如一）食物の郷土特異性と季節變化性とが國民榮養に及ぼす影響に就て（大森憲太）救荒食品の榮養學的貢獻（井上憲政）動物性蛋白質資源と淡水魚の養殖（和田富起）戰時食糧確保と榮養改善（原徹一）母子榮養管理の提唱（大磯敏雄）東京市内に於ける二・三母子ホームの献立に就て（松澤九二雄・佐々木理喜）勞務者の榮養と共同炊事の提唱（有本邦太郎）人口問題領域と學童給食に就て（松坂義正・石田正己）人口政策に對する産業組合の寄與（馬場光三）工場鑛山の購買會に就て（中山三郎）住宅改善と生活改善に就て（菊田一雄）民族増強と住宅政策（諫早信夫）國民住居の標準私案（大村巳代治）本邦大都市に於ける土地、建物の賃貸狀況（池田徳眞）獨逸に於ける戰爭犠牲者保護方策としての小移住地の建設（松山銑一郎）保護少年に於ける家庭的影響とその心身發育率（高峰博）救護院收容兒童に於ける智能指數の分布狀況（澤田廣憲）犯罪——特に年少者犯罪に關する研究（橋本勝太郎）少年不良化の原因と其對策（松下龍阿）貧困率に就て（早崎八洲）國民厚生政策としての社會事業新體制に就て（牧賢一）——昭和一七年五月三一日

#### 第四四輯 戰爭と人口を語る

昭和一六年一月一三日

#### 第四五輯 我國の將來人口

第一二回人口問題同政者會合記録 人口政策確立要綱の目標と方策（美濃口時次郎）我國人口の趨勢と將來

人口（中川友長）人口一億の可能性（小田橋貞壽）一億人口の生物學的基礎（川上理一）——昭和一六年三月三十一日

#### 第四六輯 東北人口

人口問題東北地方協議會報告書 我國人口の趨勢と人口政策確立要綱（中川友長）東北地方人的資源増強に對する東北更新會の施設について（香坂昌康）東北振興問題（渡邊男二郎）研究發表の概要とその所感（林春雄）東北地方人口分布概觀（田中館秀三）東北人口の動態性變動に就いて（増田重喜）東北地方に於ける所得と人口（早川三代治）東北六縣公表戸口當り生産力の質的吟味（加地成雄）移植民政策と人口問題（上原轍三郎）名子制度の地理的分布（山口彌一郎）宮城縣下農漁村二三例の人口構成圖（田邊一郎）舊仙臺藩の人口政策（玉山勇）米澤藩の人口問題（長井政太郎）舊南部領に於ける二三の人口問題（森嘉兵衛）徳川時代の青森縣内に於けるアイヌの分布と津輕藩の政策（吉岡龍太郎）國土計畫と人口（吉田秀夫）國土計畫と東北産業の地位（小岩忠一郎）都市配置との關聯に於てみたる奥羽地方人口供給力に關する若干の考察（箱稔・上田正夫・窪田嘉彰）國土計畫の社會政策的反省（服部英太郎）國土計畫より見たる人口及び産業配分の方法に就いて（金森誠之）東北地方に於ける農業勞働力の特性（小池保）青森縣の出生率に就いて（川上理一・久保秀史）流早死産より見たる東北地方の特質（九島勝司）死産及新産兒死亡の原因と之が豫防對策に就いて（篠田糺）岩手縣の無醫村と有醫村の出生と死亡の關係（根本四郎）東北六縣に於ける乳兒

死亡に就いて（丸山博）東北地方に於ける乳幼児死亡率を高むる疾患に就いて（南出英憲）乳幼児の検診に就いて（鈴木芳之助）當地方に於ける性病の蔓延現況特にワ氏反應集團檢診成績（伊藤實）東北農村の結核問題（海老名敏明）仙臺市内に於ける各種集團の結核狀況（中村隆）冷害凶作と兒童の身長體重發育（安部弘毅）岩手稗食地方の榮養に就いて（工藤祐三）榮養改善による罹病率死亡率の減少に就いて（佐藤壽子）  
腦溢血死亡者の統計的觀察（石井正）——昭和一六年一月五日

#### 第四七輯 第十四・人口問題講演集

現下の人口問題と人口政策（川村秀文）人口問題への貧者の一燈（佐藤彰）人口問題の下にあるもの（新明正道）家族と人口問題（中川善之助）日本人口の將來（中川友長）人口政策と民族資源（古屋芳雄）國土計畫に基く東北開發計畫（金森誠之）——昭和一六年一月二六日

#### 第四八輯 ラテン・アメリカの人口問題

Moisés Puelje Troncoso : Problemas sociales y economicos de América Latina. Santiago de Chile, 1936.（神井商業大學商業研究所中南米經濟調查部譯）——昭和一六年一月五日

#### 第四九輯 結婚に関する諸問題

第一三回人口問題同政者會合記録 結婚適齡期に就て（三谷茂）婚姻と出生に就て（中川友長）婚養に就て（岡崎文規）相談所を通じて見たる結婚の實際（安井洋）——昭和一七年一月三一日

## 第五〇輯 第五回人口問題全國協議會概報

六四

昭和一七年三月三一日

### 第五一輯 人口政策と國土計畫

第五回人口問題全國協議會報告書 人口政策確立要綱に就て（美濃口時次郎） 人口政策の實施對策に就て（中村敬之進） 我が國の最大人口收容力と在外人口配分について（野間海造） 内鮮混血問題（水島治夫・三宅勝雄） 内鮮一體化政策に付て（村山道雄） 臺灣本島人の將來人口に就て（曾田長宗） 滿洲に於ける大家族制（善生永助） 太寶令に於ける人口制度の概要（加藤梅四郎） 日本人口史上の妊産婦届出制度（高橋梵仙） 徳川時代農村に於ける産兒（内田寛一） 結婚年齢分布と出生率との關係（川上理一・侯扶桑） 本邦女子結婚適齡に關する考察（岩田正道） 職業婦人の年齢及婚姻關係調査（林炳旭） 多産の條件に就いて（横田年） 少額所得世帯の多子母性の調査に付て（山田良太郎） 東京市特別衛生地區—模範衛生地區—居住婦人の妊孕狀態（岩田正道・河崎雪子） 出産力減退の分析（小田橋貞壽） 減食の繁殖に及ぼす影響（速水泱） 出生増加方策に關する酒害防除及資質強化に關する禁酒施設に就て（小鹽完次） 勞働婦人と生殖問題（佐藤美實） 結婚婦人の生殖問題（加藤朝捷） 人口問題と妊娠中毒症（中津幸男） 流・早・死産の原因と對策（篠田糺・三上正） 流・早・死産と人口問題（瀨木三雄） 女性の性病と人口問題（澤崎千秋） 人口政策實施の機構としての婦人組織に就て（金子しげり） 人口政策に於ける財政的基礎（杉山和男） 質と量より見たる我國乳兒死亡の

變遷に就て（丸山博）乳兒死亡率低下の一対策（丹羽昇）人口対策と少國民増強策（高良富子）底流層の兒童と其の保育に就て（草間八十雄）本邦母性死亡の若干の傾向に就て（笠間尙武）本邦肺結核の疫學的特徵（吉岡博人）農村結核の疫學的調査報告（山岸精實・益子義教）國民學校教員の結核問題（廣瀬環）大阪市職員健康調査―特に結核に關する―成績報告（小山義作）體力検査成績に基き都市の特殊性を論ず（山口靜夫）最近の米穀事情と乳婦並に乳兒の榮養狀態に就て（福井忠孝）勞務者住居の衛生學的調査報告（鈴木幸夫・濱野啓一・石川知福）農村食生活の改善と健康増進の一例（外岡和雄）巷の人口問題と食糧問題（朝倉昇）國民健康保險と人口問題（中橋幸吉）官業共濟組合に於ける統計的觀察（松本浩太郎）確率量の比に就て（河田龍夫）内地人口、都市と農村及外地配分問題に就て（紀本參次郎）府縣別現在人口増加率の分布（米澤治文）人口の所得階層別構成（早川三代治）戰爭經濟と人口政策（高橋次郎）戦時下農村人口現象と其の性格（野尻重雄）山村に於ける人口移動（山口彌一郎）徳島縣四國山地に於ける勞働力の移動（小畑昊）人口増強具體策としての農村工業（増田作太郎）農業人口の資質強化方策に於ける計畫地域單位の設定に就て（小田内通敏）人口政策に關聯して干拓地農家々系の考察（本岡武）栃木縣下人口資質増強施策の片影（加地成雄）機業地農村の婦人勞働力に就て（大久保滿彦）關東平野に於ける生活圏の實相（石川榮羅）大都市人口の地理學的研究（伊藤郷平）國民體格の充實度を日本人統計標準の規格に照合測定する方法に就て（津田侃二）夜間通學生の時間調査と心身鍊成の方策に就て（赤倉武）學校教室に於ける採光照明並に換

氣に關する研究（川畑愛義） 東京市京橋區月島の全成員の精神病學的調査（齋崎轍・平塚俊亮・縣田克躬・栗生敏春・三友正之助） 獨・英・米三國に於ける虛弱兒童に對する養護教育施設を顧みて我が國の現狀に及ぶ（川本宇之介） 人口政策確立要綱の具體化に必要な根本的推進力に就て（西野入徳） 人口發展の根本たる皇道世界觀人間性恢復と伸張に就いて（平出庸一） 東亞諸民族との關係に於て見たる日本民族人口に關する問題（保科正昭） 出生増加の主要方策（徳村謙吉） 結婚相談事業の社會的意義（田中孝子） 出生増加方策に關する二、三の意見（山田一夫） 母性教育徹底の急務（馬場光三） 人口對策上必要な國民母性教育の實施方法に就て（佐藤正） 人口政策より見たる結婚適齡期の保健教育（水野常吉） 保育並に保健教育について（三木安正） 最低生活費と一億人口（安藤政吉） 「保健所」を國營とし、速かに其の機構の強化擴充を計るの件（渡邊義雄） 母性保護對策要綱（白木正博・瀨木三雄） 結核撲滅の緊急對策（平出庸一） 人口政策としての療養生活指導所の提唱（横田忠郎） 人的資源確保としての新安全運動（松山銚一郎） 戦時下民族増強對策に就いて（丸本彰造） 日本人榮養要求量の標準（藤本薫喜） 國民食の理念と構成（大森憲太） 農村人口の減少と對策（板井申生） 農業人口の定有と農業經營適正規模（宮出秀雄） 都市に於ける産業勤勞青少年の養育（阿部利雄） 勞働力増強と厚生施設擴充方策（三好豐太郎） 經濟的社會的環境の差異より觀たる青少年の體格並に發育と之が對策（森末新） 優生登錄の實施に就いて（宗正雄） 國土計畫より見たる人口問題の前進

## 第五二輯 アジアの諸民族

Burton, L. H. Dudley, M. A., F. S. A. "The People of Asia." London. Kegan Paul, 1925. (厚生省人口問題研究所譯) — 昭和一七年五月三一日

### 機關誌「人口問題」

- |        |                            |
|--------|----------------------------|
| 第一卷第一號 | 昭和一〇年二月二三日                 |
| 第一卷第二號 | 昭和一〇年十一月二〇日                |
| 第一卷第三號 | 昭和一一年四月一五日                 |
| 第一卷第四號 | 昭和一一年二月一〇日(故柳澤保惠伯爵追悼紀念特輯號) |
| 第二卷第一號 | 昭和一二年六月一日                  |
| 第二卷第二號 | 昭和一二年九月二五日                 |
| 第二卷第三號 | 昭和一二年十二月一五日                |
| 第二卷第四號 | 昭和一三年四月二五日                 |
| 第三卷第一號 | 昭和一三年一月五日                  |

- |        |             |
|--------|-------------|
| 第三卷第二號 | 昭和一四年六月一〇日  |
| 第三卷第三號 | 昭和一五年一月一五日  |
| 第三卷第四號 | 昭和一六年三月三一日  |
| 第四卷第一號 | 昭和一六年八月一〇日  |
| 第四卷第二號 | 昭和一六年十一月一三日 |
| 第四卷第三號 | 昭和一七年一月三一日  |
| 第四卷第四號 | 昭和一七年七月五日   |
| 第五卷第一號 | 昭和一七年九月二〇日  |
| 第五卷第二號 | 昭和一七年十二月二〇日 |
| 第五卷第三號 | 昭和一八年二月二八日  |

人口問題叢書

第一輯 人口政策の栞

厚生省人口問題研究所編——昭和一六年一月五日



昭和十八年十月一日現在

厚生省人口局內

財團  
法人

人口問題研究會

(東東 1514)

